

活動ピックアップ!

長岡
地域
Nagaoka

ゆるまち委員会

学校外のゆるいつながりで地域を盛り上げたい



市内4大学1高専の学生と地域おこし協力隊員からなる団体です。2022年、NaDeC BASEに集まるメンバーで、学生視点で飲食店を紹介する「えきめしマップ」を作ろうという話から活動が始まりました。マップ完成後の今は、この秋に計画しているアート関連のイベントの準備をしています。学校の垣根を超えたつながりの中で、誰かのやりたいことを後押しできる団体になれたら良いなと考えています。えきめしマップは、公共施設、市内の大学、掲載店舗で配布しています。

市民活動 虎の巻

例) NPO法人市民協働ネットワーク長岡



- 必須項目
 - ・団体の活動の目的 団体としてどんなゴールを目指しているのかをわかりやすく。
 - ・事業内容 目的を達成するために取り組んでいることを具体的に。
 - ・連絡先 パンフレットを見た人が団体にアプローチしやすいものを記載。SNSアカウントなども有効です。
 - ・+αあるといいもの(すべて載せる必要はありません)
 - ・事業写真
 - ・組織構成員
 - ・事業実績
 - ・参加者の声
 - ・用語説明
 - ・ボランティアや企業協賛、スタッフ募集など

もっと詳しく知りたい方は
YouTubeの解説動画をご参照ください!

センターからのお知らせ

非営利活動団体の感染症対策をサポート/ 市民活動をささえる補助金

申請者主催の長岡市民を対象とした事業で使用する感染症対策用品の購入費やレンタル費用を一部補助します。

対象となる団体 長岡市内の2人以上で構成された市民活動団体(NPO法人、非営利法人、地縁団体、任意団体など)

補助対象率 補助対象経費の50%(上限5万円)

申請書のリストにある物品だけが補助対象です。

申請書は、QRコードのリンク先からダウンロードできます。

(例)・アルコール消毒液や非接触型体温計などの衛生用品

・空気清浄機やCO2測定器などの換気補助用品

・テントやカラーコーンなどの距離確保用品

発行

力
+
力

ながおか
市民協働
センター



配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターその他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

詳しいは
こちら

こちら



知る、つながる
好きになる
らっこて

つながる
ラジオ

市民活動の
ポータルサイト
コライト

ながおか市民協働センター



知る、つながる、好きになる
ながおか市民活動情報誌

Racotte



つながりづくりで
つながりづくり

マップづくりで
マップづくり

明日の郷土を語る会
ヨイタタンサケイカク

NAGAOKA PLAYERS
島倉 昭宏さん

活動ピックアップ
ゆるまち委員会

長岡みんなのSDGs
量り売りショップ ToRaO

マップづくりでつながりづくり

行ったことのない場所に行くときや、特定の場所を巡るときに欠かせないマップ。生活の中では、経路の確認のために使われることが多いですが、地域活動においては、地域の魅力を掘り起こし可視化するツールでもあります。今回は、地域のマップを作った2つの団体に地域マップの活用術についてお話を聞きました。

明日の郷土を語る会 ～1枚で何度もおいしい！ マップづくり～

宮本地区の地域活性化を目的として活動している「明日の郷土を語る会」は、2020年に「大好き宮本『ふるさと再発見マップ』越後長岡みやもと遊散歩」を作成しました。きっかけは、新型コロナウイルス感染症の流行により地域の行事が中止になり、世代間の交流の機会が少なくなったこと。そして宮本地区には越後長岡丘陵公園や雪国植物園などの観光スポットがあるにも関わらず、地域外に発信するツールがなかったことでした。

地域の子どもたちと作る

マップの作成を通して地域の子どもたちと大人が接する機会をつくろうと、宮本小学校の子どもたちに協力を依頼。子どもたちがマップに掲載する場所を訪れ、地域の大人たちから話を聞き、イラストと紹介文を作成しました。子どもたちに参加してもらったことで、「孫の描いた絵がマップに載り、家庭内の会話が増えた」といううれしい声もあったそうです。

マップを使った企画を開催

2021年には、マップを片手に地域を歩いて撮った写真を募集する「大好き宮本フォトコンテスト」を開催。地域内外から多数応募のあった全作品を「コミセン作品展」に展示し、一般来場者の投票で入賞作品を決定しました。一般投票にしたことで地域の方から興味をもってもらうことができ、作品を見て「宮本にこんなところがあったとは知らなかった」と言う人や、投票結果について家族と盛り上がった人もいたそう。今後は、フォトコンテストの入賞作品12点を使ったカレンダー作成や、マップを使ったウォーキングイ



宮本小学校の子どもたちが、地域でアーティストとして活動している田中翠恵さんに教えてもらしながらイラストを作成している様子。



明日の郷土を語る会が作成した「大好き宮本『ふるさと再発見マップ』越後長岡みやもと遊散歩」。それぞれのエリアで見られる生き物のイラスト入り。

ベント開催を考えているんだとか。作成から活用までの過程の中で、1枚のマップを地域活性化に効果的に活かしている事例と言えるのではないかでしょうか。

ヨイタタンサケイカク ～“ソト”の目線で 地域を編集～

長岡造形大学北研究室の学生と与板の有志「YOIMAP」で構成されている「ヨイタタンサケイカク」。これまでに、与板のまちに潜むあやしいモノたちをまとめた「よいたあやしいまっぷ」や、与板のあちらこちらにある「消」と書かれた謎の看板についてまとめた「よいたきえるかんばんマップBOOK」など、一度聞いたら忘れられないユニークなマップ4点を作成してきました。

“とがった”マップを作りたい

マップ作成に至ったきっかけは、YOIMAP代表・田中洋介さんが「まちの賑わいは、まちを歩いている人の数。与板のまちを歩いている人を増やすために、“とがった”マップを作りたい」と思い、

長岡造形大学の北雄介助教に話を持ちかけたこと。当時北研究室に所属していた学生や呼び掛けに反応した造形大学の学生たちが、実際に与板のまちを歩いたり地域の人に話を聞いたりしながら、それぞれの感性に触れたものを集めてコンセプトを決め、マップを作っていました。中には、マップを作るまで与板に来たことのなかった学生も大勢いたそう。参加した卒業生の伊藤崇宙さんは「新しいものと古いものが共存している面白いまちだと思った。自分で歩いてみたことで“まちの顔”が見えた気がした」と言います。



イベント「キャンドルナイト@与板」でのまち歩きの様子。与板小学校の授業でも、マップを活用してまち歩きを行いました。



ヨイタタンサケイカクが作成したマップ。(左上から時計回りに)「よいたあやしいまっぷ」、「よいたきえるかんばんマップBOOK」、「よいたかわいいまっぷ」、「与板そらカメラ」。



明日の郷土を語る会

1985年設立。宮本地区の地域活性化のため、花見や芸能大会、村祭りなどのイベントの主催・後援。感染症流行後、まち歩きマップを作成。
<マップの配布場所>
アオーレ長岡、宮本コミュニティセンター、国営越後丘陵公園、雪国植物園など



ヨイタタンサケイカク

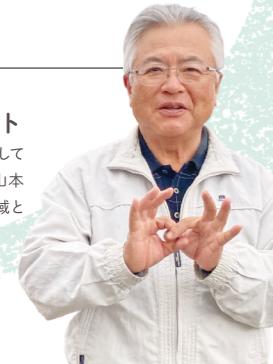
2019年設立。長岡造形大学北研究室の学生と与板有志で構成されており、名所と名所の間を含めたまちの雰囲気が伝わるマップを作っている。
<マップの配布・販売場所>
右記のウェブサイトをご覧ください。



NAGAOKA ウワサのあの人インタビュー! PLAYERS

島倉 昭宏さん

67歳／元教員／
山本地区活性化プロジェクト
1955年長岡市生まれ。小学校の教員として
2016年3月まで勤めた後、町内会長や山本
地区コミュニティ推進協議会などで地域と
関わりを持ち始める。



地元への恩返し 仲間と楽しむ地域の活性化

古くは東山油田で栄え、今も神社や史跡などの歴史文化や山野草などの自然が多く残っている山本地区。島倉昭宏さんは、そうした山本地区の魅力を発信することで、地域に貢献しようと日々活動しています。「教員をしていた頃は地元と関わることがあまりなかったので、定年後は地元に貢献したい」と、退職して1年後

の2017年から町内会の役員などで地域と関わりをもち始めました。

山本地区コミュニティ推進協議会の山本地区活性化プロジェクトウォーキングチームに所属して、地域の健康づくりと魅力発信のために地域マップを作成。リーダーを下支えする立場で、案を出し合うと同時にチームをまとめていきました。

そして完成したのが史跡や自然の探訪をはじめ、地域の飲食店や温泉施設などの情報が盛りだくさんの山本ウォーキングマップでした。製作したマップは公共施設や飲食店などのほかに、山本地区の全戸へ配布を行いました。

地域内からは期待したほどの反応はあまりなかったものの、メディアに取り上げられたこともあり、地域外からマップに関心を寄せる人が見られたそう。外の人からの反応が原動力となり、地域内外の人を対象にした、「地域deキャンプinやまもと」を開催。今までのメンバーだけではなく地域の若手にも声をかけました。「若い人のアイデアを取り入れ、より地域の魅力を伝えられる内容としました。テント張りや泊まり込みなど苦労はしたもの、また来たいという参加者の声のおかげで達成感を得ることができました」。



イベント「キャンドルナイト@与板」でのまち歩きの様子。与板小学校の授業でも、マップを活用してまち歩きを行いました。

学生の視点を活かすために

一緒にマップを作成した田中さんは、与板に住んでいない学生が加わることによって「そんな視点があるかと驚かされるような発見があった」と言い、その斬新な視点を活かすため、あえて作成中は地域内の方からフィードバックをもらうことは控えたそうです。また学生のマップ作成を見守ってきた北助教は「長く住んでいると、そのまちの魅力に気づかなくなる面もあると思います。様々な視点や価値観をもった人たちで複数のマップを作ることによって与板のまちを多角的に浮かび上がらせることができるのでは」と言います。

今後は、マップにとらわれず様々な方法で与板の魅力を表現していきたいそう。「ソト」の目線を上手に活かし、地域内の人では気づけない地域の良さをユニークな手法で編集して届けているプロジェクトです。

マップの作成過程で地域の小学生を巻き込んだ明日の郷土を語る会と、地域外の大学生を巻き込んだヨイタタンサケイカク。地域マップは、多様な人と一緒に作ることで、人とのつながりをつくる機会になるということがわかりました。地域に長く住んでいると地域の魅力に慣れてしまいますが、マップづくりはまちを見る人や魅せ方を変えることで地域に新しい発見をもたらす手段なのかもしれません。

ヨイタタンサケイカク

2019年設立。長岡造形大学北研究室の学生と与板有志で構成されており、名所と名所の間を含めたまちの雰囲気が伝わるマップを作っている。
<マップの配布・販売場所>
右記のウェブサイトをご覧ください。



組む島倉さんの地元への“恩返し”は、今後も地域の活性化につながっていくことでしょう。



「地域deキャンプinやまもと」での様子。テント泊のほかに自然を活かしたトレッキングツアーなどを実施しました。